

## 執筆者紹介

### 戸松 泉 (トマツ・イズミ)

相模女子大学教授

東京女子大学文理学部卒業、同大学大学院修士課程修了、名古屋大学大学院にて博士号（文学）取得。研究分野は日本近代文学（主として一葉・漱石など明治期文学。近年は近代作家の草稿研究）。

著書に、『小説の〈かたち〉・〈物語〉の揺らぎ——日本近代小説「構造分析」の試み』（2002 翰林書房）・『樋口一葉 人と文学』（2008 勉誠出版）・『複数のテキストへ——樋口一葉と草稿研究』（2010 翰林書房）などがある。

### 金 美眞 (キム・ミジン)

東京大学大学院博士後期課程在学中

韓国ソウル女子大学卒業、韓国外国語大学大学院修士課程修了。東京大学大学院に留学し、研究生課程、修士課程を経て、現在博士課程に在籍。研究分野は近世後期の絵入り小説である合巻で、特に柳亭種彦の合巻に注目して勉強している。今まで発表した論文には、「種彦合巻『女模様稲妻染』と大津絵の趣向——三馬・京伝合巻との比較を通して——」（『日本文学』61-4、2012年4月）がある。

### 盧 俊偉 (ロ・シュンイ)

北京外国語大学日本学研究センター博士課程・国文学研究資料館外来研究員

中国北京外国語大学日本学研究センター博士課程後期在籍、一年間の訪日研修として、2012年4月1日から2013年3月31日まで、国文学研究資料館で外来研究員として勉強している。日本近世初期文学を研究し、『伽婢子』について博士論文を書きたいと思う。今まで発表した論文には『『剪灯新話』の受容から見る東アジアにおける文人意識——「水宮慶会録」の翻案を中心に』、『『伽婢子』における時間設定』、『『雨月物語』における上田秋成の女性観——「吉備津の釜」を中心に』がある。

### 李 忠濤 (イ・チュンホ)

高麗大学校日本研究センター HK 研究教授

韓国高麗大学校・同大学院修士課程卒業、東京大学大学院総合文化研究科博士号（文学）取得。研究分野は日本近世文学（近世文学における『太平記』の受容）。発表論文に「江戸の楠正成像——浮世草子における好色化と当世化を中心に——」（『江戸文学』第41号特集「軍記・軍書」、2009年10月、ペリカン社）、「正成伝説と宮城野信夫譚」（『超域文化科学紀要』第15号、2010年11月、東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻）がある。

### 梁 喜辰 (ヤン・ヒジン)

中央大学大学院博士後期課程在学中

中央大学大学院文学研究科博士後期課程国文学専攻在学中、現在、韓国で小

林多喜二をテーマに博士論文を執筆中。主な業績に「芥川龍之介小説集（或阿呆の一生、珠儒の言葉、西方の人）韓国語訳出版」文波浪（韓国）（2007年2月）、「小林多喜二『蟹工船』韓国語新訳出版」文波浪（韓国）（2008年8月）、「世界は『蟹工船』をどう読んでいるか+『蟹工船』上映会」に出演（渋谷ヒルサイドプラザホール）（2009年5月）、「小林多喜二『蟹工船』の『集団描写』—日本自然主義との関係から」、『中央大学大学院研究年報』（文学研究科編）39号（2010年2月）、2012年小樽小林多喜二国際シンポジウムで『『蟹工船』の韓国語訳をめぐる読者の階級認識』を発表（2012年2月）がある。

### 佐々木 比佐子（ササキ・ヒサコ）

総合研究大学院大学博士課程在学中

放送大学卒業、放送大学大学院修了。現在は総合研究大学院大学に在学中。歌人斎藤茂吉と、彼と師弟の関係にある歌人佐藤佐太郎、彼等の作品研究を志している。論文は、「佐藤佐太郎研究——『立房』まで——」、「斎藤茂吉研究——初期歌論——」があり、また佐藤佐太郎創立の歩道短歌会の会員として、歌誌『歩道』に短歌作品、随筆等の執筆を行っている。

### Moinuddin MOHAMMAD（モインウッディン・モハammad）

大阪大学大学院博士後期課程在学中

インドのネルー大学日本語学科を卒業。デリー大学大学院で日本文学を学び、修士号およびM.Philを修得。2007年に文部科学省の奨学金を受け大阪大学大学院文学研究科での研究を開始。2008年より博士後期課程に在籍。現在学位論文を準備中。日本近代文学、とくに志賀直哉の大正期の作品を研究している。これまで、日本語・英語による計5篇の研究論文を発表。口頭発表多数。著書（MOHAMMAD MOINUDDIN, “Exploring the Idea of Self in Modern Japanese Literature—Reading the Masterpiece of Shiga Naoya “WAKAI”——,” 〈LAP Lambert Academic Publishing, Germany, October, 2012〉。また、日本近代文学作品のヒンディー語などへの翻訳を行っている。

### 高 艶（コウ・エン）

東京外国語大学大学院文学研究科博士後期課程在学中

日本近代文学の専攻で、現在主に深沢七郎の研究をしている。今まで、深沢七郎に関する論文を二篇上げた他、中国の雑誌で日・中・韓三国のジェンダー分析・女性地位比較の論文を三篇発表している。（学部生時代の専門は韓国語）これから深沢七郎の他、中上健次についての研究も進めたいと思っている。

### 南 明日香（ミナミ・アスカ）

相模女子大学教授

早稲田大学第一文学部卒業、同大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得。早稲田大学比較文学研究室助手、フランス国立東洋言語文化研究院（INALCO イナルコ）教官を経て、2007年より現職。Ph.D（INALCO）。研究分野は日仏比較文学・比較文化。著書に『永井荷風のニューヨーク・パリ・東京』、『荷

風と明治の都市景観』、『ル・コルビュジエは生きている』、翻訳書にミカエル・リュケン『20世紀の日本美術』がある。

### **Bates ALEX** (ベイツ・アレックス)

ディキンソン大学助教授

ペンシルベニア州のディキンソン大学に所属。大学院は伊藤ケン先生のもとでミシガン州立大学で過ごした。大学院時代はフルブライトで来日し、立命館大学の中川成美先生のもとで研究した。2010-2011年の間日本交流基金で再来日し、立命館大学で研究した。最近関東大震災と文学について本を書き、現在査読中である。

### **梁 青** (リョウ・セイ)

名古屋大学大学院博士後期課程在学中

湖南大学卒業、厦門大学大学院修了。現在は名古屋大学大学院国際言語文化科に在学中。研究分野は和漢比較文学（九世紀末に成立した『新撰万葉集』を主とする）。発表論文に「『新撰万葉集』漢詩にみられる和歌的表現——「涙河」の漢詩を中心に」（『和漢比較文学』、第49号、2012年8月、刊行予定）、「『新撰万葉集』における漢詩と和歌——上恋101を中心に——」（『言葉と文化』、第13号、2012年2月）がある。

### **Adam BEDNARCZYK** (アダム・ベドゥナルチュク)

ニコラウス・コペルニクス大学言語学部日本語文化研究室准教授

ヤギェロン大学東洋学研究所日本中国学科卒業、修士号取得。（修士論文：《現実と夢の間～『更級日記』に於ける文学的虚構と夢の世界について～》）。大阪大学言語文化研究科博士後期課程修了、博士号取得（博士論文：《近世における絵合の展開》）。研究領域は、日本古典文学、平安時代の宮廷文化と後世におけるその受容、日本の遊戯文化史等がある。主要論文に「近世における絵合の展開の一面について」『間谷論集』第4号（日本語日本文化教育研究会2010）、「《タマモ》と六条斎院禊子内親王物語歌合にみる『玉藻に遊ぶ』について」『Folia Orientalia』第47号（ポーランド科学アカデミー2010）、「老方対若方～『吾妻鏡』建暦二年十一月八日条を繞りて～」『日本学研究』第21輯（学苑出版社2011）、「褻晴の境目にて～「女絵」「男絵」の観点から『源氏物語』の絵合～」『Analecta Nipponica』第1号（ポーランド日本研協会2011）、翻訳に『更級日記』[ポーランド訳語]『日林』第14号（2007）等がある。

### **鷺山 郁子** (サギヤマ・イクコ)

フィレンツェ大学教授

東京外国語大学修士課程修了。ナポリ東洋学大学、及びローマ大学で日本語講師を勤めた後、フィレンツェ大学教官に就任、現在に至る。特に日本韻文学の分野で様々な論文を発表しているが、『古今和歌集』のイタリア語全訳の上梓に見られるように、平安文学が主な関心分野である。